NPO、市民活動センター、
地域団体、企業など向け

災害が起こってしまった･･･その後に！

こんなことできるかも！

とちぎコミュニティ基金

2019年11月版

●災害が起こったときの支援の流れ

台風などによる水害発生

まずは団体、職員の状況を確認する

安全な場合

↓

被害状況を確認し、情報を収集する

↓

関係機関と連携して、どこで何が必要か共有する

↓

●家屋の復旧　：　室内の泥出し、濡れたものの片付け、庭の泥出し、使えなくなってしまったものの運搬、写真などの乾燥、生活スペースの確保、屋根修理

●避難所や生活サポート　：　運営サポート、炊き出し、足湯や入浴、物資支援、子どものケア、学びのサポート、高齢者サポート、健康サポート、県外ボランティアのコーディネートなど

●災害ボランティアセンター　：　運営サポート、道具の確保、ボランティア募集、安全なボランティアのコーディネート

●公共スペース　：　業者以外で行う可能性があるもの（側溝泥出し、倒木処理など）

●農地や山地　：　長期的な復興支援に関わる可能性あり

●地域経済　：　長期的な復興支援に関わる可能性あり

～支援の流れ～

緊急期
↓
混乱期
↓
復旧期
↓
生活支援期～復興期

NPO団体が支援するときの大切なポイント

→情報を集めて、毎日変わる状況に応じて、お互いの役割分担を行う。
→必要なところに必要な分の支援を行えるような仕組みをつくる。
→各団体のネットワークや専門性を活かした支援を行う。
→被災した方の実際の声やニーズをききとる。
→ボランティア、活動支援金などの募集を行う。（県内、県外にも積極的に情報発信を行う）
→通常業務の調整、体制変更を行う。

情報の共有をするときに必要なこと

・どこで何人ボランティアが必要と想定されるか
・被災者がどこでどんな物資が必要か
・支援団体がどこでどんな物資が必要か
・支援時の資金をどう集めるか（募金、助成金など）　など

●元気な栃木に再生するためには、必要とされていることはたくさんあります！

災害からの復興に向けて、地域の様々な団体が特技を活かし、取り組んでいる方を募集しています。

子育て

子ども

障がい者

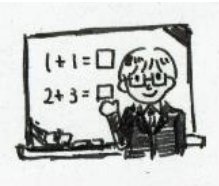
高齢者

農業・林業

たすけあい

アウトドア
・自然学校

教育・学習支援



国際

文化系

婦人会や青年会

自治会・民生委員

生協

地域包括支援センター

学生サークル

企業の組合

社会奉仕団体

企業

復旧期

●炊き出しセンターでマッチングができるかも

想定される団体：子ども・地域食堂、障がい者、農業、文化、自治会、生協、飲食店、学生サークル　など

避難所で避難していたり、家に住めても電気系統が使えなかったりすると、温かい食事を毎日食べるのも難しいかもしれません。もし数百食が必要だとしても、毎日ボランティアで作り、提供はできないという団体もあるでしょう。

たとえば、無事だった近隣の飲食店に協力してもらい、調理した食事を提供してもらったり、フードバンクを通して食品寄付を集めたり、食品企業から寄付を募ったりをして、情報をとりまとめると、複数の地域で同時に炊き出しを実施ができます。

炊き出しセンターの出来上がりです！

●子ども食堂やおとな食堂ができるかも

想定される団体：子ども・地域食堂、農業、国際、自治会、生協、飲食店、学生サークル　など

地域で開かれている子ども食堂を大人も食べられるようにしたり、子ども食堂で臨時炊き出しを行ったり、食事づくりのプロチームの活躍の場はたくさんあります。

また、多くの方に向けた炊き出しだからこそ、アレルギーや宗教を配慮したメニューを必要とする方のニーズもあるかもしれません。

炊き出しセンターと連携できると、ニーズの聞き取りがスムーズにできるかもしれません。

●足湯隊結成できるかも

想定される団体：たすけあい、文化系、自治会、生協、学生サークル　など

足湯は難しい！と思うかもしれませんが、足湯のねらいは、休息とお話です。
初めての方でもちょっとしたコツを教われば、できます。お兄さんはおばあちゃんに、お姉さんはおじいちゃんに喜ばれます。家族や近隣の人にはなかなか言えない不安やストレスも、他人だからこそ話せることもあるものです。

学生チームを結成したり、話すのが好きというチームで結成したり。そこから、本当に必要とされていることが聞き取れ、次の支援につながることもあります。

復旧期

●傾聴ボランティアが足湯で活躍できるかも

想定される団体：傾聴団体、たすけあい、婦人会・青年会、学生サークル、地域包支援括センター　など

「足湯をする」というと、マッサージの方法がわからない、初めてのボランティアには難しそう、という声もよくききますが、心配有りません。リラックスしてもらいながら、「災害が起こった時、どうだったか。」、「今の困りごとはなにか。心配事はあるか。」などをまずは吐き出すことも大切なプロセスです。

泥出しなどの体を動かすことはできないけど、何かできないか、、、という方も、日常、お話が好きな方、傾聴の経験がある方も求められています。

また、これらの会話から、本来のニーズがみえてくることもあります。他の支援団体と連携して行えると更に良いです。

●DIYセンターで道具が貸し借りできるかも

想定される団体：農業・林業団体、アウトドアや自然学校、企業　など

災害が起こってからすぐには、必要な物資が足りないことが多くあります。特に、家屋の片付けや泥出しのときに必要な工具や備品も十分に足りないことがあります。そこで、地域の拠点に、DIYセンターをつくり、道具の貸し借りができると、必要な作業が効率よく進むことができます。

また、スマートサプライなどで、必要な物資マッチングができると、より早くDIYセンターの資材も揃えることができます。

＊スマートサプライとは？　必要な物資が必要な数だけ、届く物資マッチングの仕組みです。

●軽トラなどの必要な車のカーシェアリング

想定される団体：企業、アウトドア・自然学校、農業・林業、社会奉仕団体　など

災害が起こってからすぐ、次に必要なものの一つに自動車があります。しかし、故障してしまったり、動かせなかったりすると、使えなくなってしまったものを運搬や、日常生活の移動にも影響があります。

そこで、軽トラックや自動車をカーシェアリングの仕組みが地域にできると、必要なときに自動車を使え、シェアできます。

●子育てママカフェができるかも

想定される団体：子育て、子ども、障がい者、たすけあい、婦人会・青年会、文化系、社会奉仕団体など

「家の片付けをしたいけれど、子どもがいてなかなか片付けることができない。」というご家族もいます。そんなときに、一時預かりをしてくれるボランティア団体が地域拠点に入る、またママ同士のネットワークで見守りができる仕組みができるなど、ママを応援することができます。

初期のボランティアセンターの多くは、家屋の片付け、泥出しなどが中心になりますが、さまざまなニーズがでてきます。

●見守りや防犯見回りができるかも

想定される団体：自治会・民生委員、たすけあい、高齢者、地域包括支援センター　など

災害が起こった後、日中は片付けを行い、夜は家族の家で寝泊まりする方も多くなります。地域に人がいなく、戸締まりも十分にできなくなると、盗難などの被害を受けることもあります。

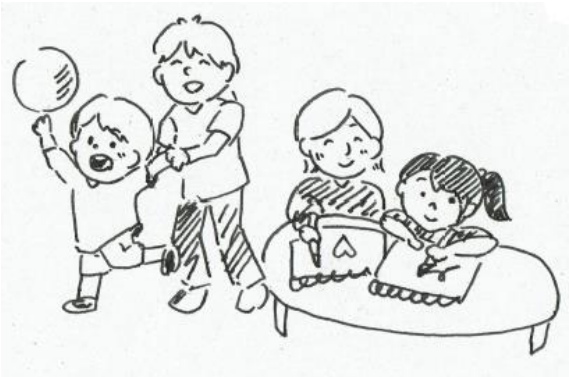
今まで地域にあった見守りの仕組みが機能しない場合もあり、できる人たちが防犯の見守りができると安心です。

●子どもの居場所や遊び場づくり

想定される団体：子育て、子ども、アウトドア・自然学校、文化、学生サークル　など

災害が起こったあとは、子どもたちも不安やストレスを抱えます。災害ごっこをしたり、落ち着かない様子になったりすることもあり、子どものケアも大切です。家族や周りの大人だけでなく、地域で見守る場所をつくっていくことが求められます。

日常から子どもとの関わりがある団体が、子どもの居場所や遊び場をつくっていくと、子どもたちの日常に戻るきっかけにもなります。



●親子炊き出し体験ができるかも

想定される団体：子育て、子ども、たすけあい、婦人会・青年会、アウトドア・自然学校、学生サークル　など

炊き出し。というと、非常時の食事の意味合いが強いかもしれませんが、それさえも体験だというアイディアです。

炊き出しの調理を、親子で一緒につくることで、食事がもっともっと美味しく感じること間違いなしです。

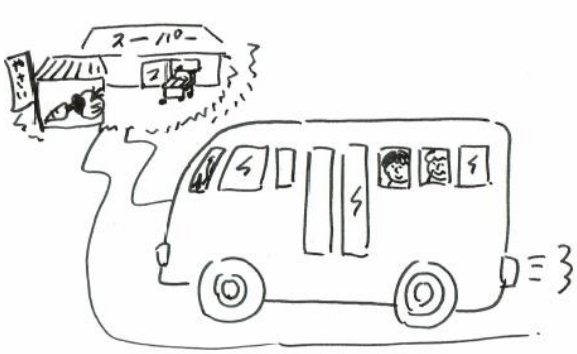
みんなでご飯を作る会もほっとする一息になるかもしれません。

●臨時の買い物バスの運行ができるかも

想定される団体：自治会・民生委員、たすけあい、高齢者、地域包括支援センター、生協、企業　など

自動車が使えず、近隣にスーパーやコンビニがない場合は、毎日の買い物もとても大変になります。そんなときに、臨時の移動販売車があると、買い物の心配も減ります。

重いものも運ぶ必要がなくなり、とても楽になるでしょう。お店とたすけあいの団体が連携してできると、回りながら見守りやニーズの聞き取りなどもできます。



●物資支援マッチングができるかも

想定される団体：障がい者、高齢者、たすけあい、学生サークル　など

必要なものがお店になくなってしまうと、困りますよね。ただ、SNSなどで「足りないので、寄付して下さい。」と呼びかけると、必要以上に届いてしまい、せっかく届けられた物資が使えない可能性もあります。

なかには、スマートサプライといって、必要な物資が必要な数だけ、届く物資マッチングの仕組みもあります。必要なものと数を伝えると、アマゾンを通して届きます。支援するボランティアがニーズを調べて、まとめて物資マッチングができると、寄付をする側も必要な側もお互いに安心ですね。

復旧期

●外国人市民向けに情報発信ができるかも

想定される団体：国際、教育・学習支援、学生サークル　など

災害がおこるとき、起こってから、被害を受けてから、日々状況が変わっていきます。日本語を母国語としない方の場合は、避難する時のことや被災してからのことなどの手続きがわからないことも課題としてあります。

いろいろな国の方が住んでいるからこそ、「やさしい日本語」を使って、わかりやすい情報発信ができると、安心です。

＊やさしい日本語とは、普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のことです。

例）厳重に注意してください。 → 気をつけて ください。
　断水や停電となっています。 → みずと でんきが つかえません

●多言語情報班でニーズ聞き取りができるかも

想定される団体：自治会・民生委員、たすけあい、国際、地域包括支援センター　など

被害を受けてからの罹災証明や、ボランティアセンターへの依頼する時など、外国人市民にとっては手続きが難しい場合もあります。

たとえば、英語以外の言葉にも対応できる多言語情報班が結成できると、ニーズの聞き取りをすることも安心してできます。ネイティブのように話すことができなくても、伝えようとする気持ちがあることが大切。困ったときの助け合いができるといいですね。

●障がい者のある方の聞き取り調査ができるかも

想定される団体：障がい者、高齢者、自治会・民生委員、たすけあい、地域包括支援センター　など

災害が起こる前に見守りをしている方も被災している場合、障がいのある方など、支援が必要な方への支援に時間がかかってしまうこともあります。

日常の在宅福祉の再開までに、見守りをしている人たちが連携して、ニーズに対応していくことも必要かもしれません。見守りをする方と、支援する方が連携していくことが理想です。

復旧期

●独居高齢者の方などのニーズ調査ができるかも

想定される団体：高齢者、たすけあい、婦人会・青年会、地域包括支援センター　など

家族が遠くに住んでいたり、お一人の方は、周りの家族や友人の手助けもなかなか借りられないこともあり、片付けや手続きなどができないこともあります。

たとえば、罹災証明の出し方などの必要な手続きを一緒にするお手伝いボランティアがいる、ボランティアセンターに依頼をしているかなどを調査してお手伝いするボランティアがいるといいです。

●災害ボランティアセンターの運営サポートができるかも

想定される団体：中間支援、たすけあい、企業　など

社会福祉協議会などが設立した災害ボランティアセンターも日常業務と並行しながら限られた人数で運営することもあります。また、災害時の対応に慣れていない場合もあるので、災害が起こった時の支援の経験がある支援ボランティア団体が連携してサポートしていくことも必要かもしれません。

ニーズの数がたくさんあると、その対応に追われることもあるため、ニーズとして出ていない見えていないニーズによりそうことが二次被害の予防にもつながります。

●災害対応の中間支援センターの事務サポートができるかも

想定される団体：たすけあい、学生サークル　など

災害が起こった後に、災害支援を行う中間支援・市民活動センターも、日常業務と兼業して行うことがほとんどです。地域のNPO同士で連携しながら、ニーズの可視化と、対応の分担が常に必要になります。また、県外からの事務サポートなどの応援があると、とても心強い力になるかもしれません。

裏方のサポートも求められています。

●復興のためのしごとづくりができるかも

想定される団体：農業・林業、たすけあい、文化系、社会奉仕団体、 など

ある程度生活の場が整ってきても、日常生活に戻るまでには時間がかかります。避難所や仮設住宅での生活が長期化すればすることもあります。

たとえば、タオルを縫ってまけないぞうをつくったり、田畑を再生して綿を育てて、コットン製品を、復興商品として販売したり、経済的な支援もできるかもしれません。

●田畑や里山の再生ができるかも

想定される団体：高齢者、農業・林業、アウトドア・自然学校、学生サークル など

季節に応じて必要な作業ができなかったり、農機具の被害があったりすることで、田畑の耕作をやめざるを得ない方もでてきます。そんな田畑の再生を地域の方々と一緒に、ボランティアグループが学生サークルと一緒に担い、できた収穫物で収穫祭をしたり、復興商品を開発したり、新しいアイディアが生まれるかもしれません。

●くつろぎサロンや木工教室ができるかも

想定される団体：たすけあい、婦人会・青年会、高齢者、学生サークル など

復興に時間がかかっていくと、つながりの場や話せる場も大切になります。ですが、話をすることがメインの集まりには、なかなか参加できない人もいます。

たとえば、お話が好きな方たちには、お茶会やくつろぎサロンを、手を動かすことが好きな方たちには、木工教室を、などと、参加しやすい工夫があるといいかもしれません。

●学生向け学習スペースができるかも

想定される団体：教育・学習支援、国際、学生サークル、企業、 など

災害がおこった後、お家に住めていても、勉強部屋が使えなかったり、避難所や仮設住宅などで生活していたりする場合、、安心して集中して勉強できる場所が限られてしまう場合もあります。

地域拠点に学習スペースがあったり、学習支援団体が応援に来てくれたりすると、学習のスペースもできるかもしれません。

●地域のお茶会サロンかも

想定される団体：高齢者、たすけあい、婦人会・青年会、自治会・民生委員、地域包括支援センター　など

日常から地域の自治会などの集まりがある場合もありますが、災害が起こってからは引っ越しをしなければいけないこともあり、今までの近所の関係性、コミュニティが壊れてしまうこともあります。

意図的によそ者だからこそできるお茶会サロンなどを企画してみてはいかがでしょうか？つながりが、新しいたすけあいの関係をうむかもしれません。

●動物やアロマテラピーで癒やしの場ができるかも

想定される団体：たすけあい、文化、婦人会・青年会、学生サークル　など

災害が起こってしばらく経ってから、PDSD（心的外傷後ストレス障害）やこころの病気を発症することもあります。

動物とのふれあいやヨガ、アロマテラピーに関わる方と、支援ボランティアなどが連携して、癒やしの機会がつくれるといいかもしれません。

●まだまだできるかも！アイディアと実施者を募集しています

被災された皆様、お見舞い申し上げます。
一日も早い復興を目指して、「困ったときはお互い様」。みんなで元気な栃木をつくりましょう。

活動団体の分野 × 必要なこと × 〇ヶ月後 ＝ まだまだあるかも

こんなことが自分たちでできる、というアイディアを実現するために、本気でお手伝いします。

◎アイディアを形にするために

一緒に連携して、情報発信をしながらとりくんでいきましょう。

◎始めたいんだけれど資金が足りない・・・

とちぎコミュニティ基金では、「がんばろう栃木！募金」を立ち上げて、寄付を募っています。
集まった基金は、災害救援、復興支援のための活動を応援するために使わせていただきます。
申請など、詳しいことはホームページに掲載していきます。

◎がんばろう栃木！募金に寄付して応援したい

→クレジットカードからの寄付　https://www.tochicomi.org/19/　→→→
→郵便局から　口座番号：00110－8－281282　加入者名　とちぎコミュニティ基金
→銀行から　栃木銀行　馬場町支店　普通　9918708
名義：　(特非)とちぎボランティアネットワーク　理事 矢野正広

災害後　こんなことができるかも集

とちぎコミュニティ基金

2019年11月1日発行

住所　〒320－0027
栃木県宇都宮市塙田2-5-1　共生ビル3階
認定NPO法人　とちぎボランティアネットワーク内

TEL　028－622－0021
FAX　028－623－6036
HP　https://www.tochicomi.org/
Mail　info@tochicomi.org